

外国人のための確定申告セミナー  
(2月22日)

NICでは毎年、確定申告の時期に合わせて、名古屋税理士会との共催で「外国人のための税理士による無料税務相談」を行っています。これまでは、税理士が個別に、書類の作成をしてきましたが、今回



▲言語ごとに通訳者のサポートが入りました。

は、外国人の方が自ら確定申告の手続きができるように、具体的に記入方法を学ぶセミナーを実施しました。当日は36名が参加し、実際に金額を計算し、書類を埋めたりと、手を動かしながら懸命に講義を聞いていました。参加者からは「今まで人に頼っていたけれど、説明を聞きながら自分でやってみただけで、確定申告の仕組みや控除の種類などがよくわかった」という声が聞こえました。



▲セミナー終了後は個別相談も実施しました。

難しいながらも、税理士や通訳のサポートで、何とか自分で書類を作成できたことに自信が持てたようです。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う  
NICからの情報発信

新型コロナウイルス感染症が拡大し始めてから、NICでは外国人市民に向け、ホームページ、SNS、館内掲示等を通して、多言語で情報発信をしています。

大切な情報をすぐに得られない外国人から、「熱が続いているが、どうしたらいいか」、「帰国したくてもできない。在留期限が切れてしまう」「フリーランスで働いているが、仕事なくなった」などの相談が情報カウンターに寄せられています。感染拡大が長引くにつれ、彼らの生活に影響が出ており、不安も大きくなっています。

今後もNICは、日常生活で気を付けること、感染が心配な場合に相談や問い合わせをする場所や方法、そして生活や仕事に関する公的な対応や支援の窓口などの情報をわかりやすく、迅速に発信していきます。

お知り合いの外国人の皆様にご案内ください。



▲情報サービスコーナーの入り口に、消毒液を置き、手指消毒の方法について伝えています。



途上国で現場を持って活躍している、地域の国際協力NPO/NGOのリーダーにお話を伺います。

～日々の生活で国際協力編～  
その人がもつ  
個性が生かされる社会をめざして！

顔の見える店～FAIR TRADE風's  
店主 六鹿 晶子さん

リーダーズ・メッセージ

今できることに地道に向き合えば  
その先がきっとみえてくる



フェアトレード(FT)の商品を通じて、世界とわたしたちのつながりや仕事の大切さを伝える「顔の見える店～FAIR TRADE風's」店長の六鹿晶子さんにお話を伺いました。

大学生の時、エビの養殖場として利用された土地は、マンゴローブ林を伐採し造られるため再生が難しいこと、デニムにダメージの風合いを出すための加工によって、肺病を患う生産者がいることを知り、衝撃を受けました。「私たちの普段食べているものや着ている服の裏側で苦しんでいる人がいる…きっと他にも問題がある！」と調べたことがきっかけで、「フェアトレード」という言葉に初めて出会いました。「何かできることはないか？」というアンテナが人をつなぎ、前店長の土井ゆき子さんが営む「フェアトレード・ショップ風's」へ導かれ、土井さんの国際理解教育ワークショップに何度も参加しました。これまでに知った生産現場の実情や貧困問題を地球上でどう生きるかという視点から楽しく学ぶ方法に魅力を感じ、大学でFTを題材とした上映会の開催や出店等の活動をしていくうちに、社会問題を解決する仕事に携わりたいと考えられるようになりました。

NGOで働くには実務経験が要求され、大学卒業後は、環境系企業に就職しましたが、自分の居場所を見つけれず体調

を崩しすぐに退職してしまいました。そんな時、ご縁があり、少しずつ店の手伝いはじめたのですが、FTの商品に囲まれると不思議と心が癒されていきました。手仕事の商品はどれも同じものではなく、店に集まる人も多様性を認め合っているからではないかと思うようになりました。それから5年が経ち、店を名古屋から豊田へ移転するという話が出たとき、この場を残したいという思いから、今年1月に店を引き継ぎました。

引き継ぎ後、胡椒農場やカシューナッツの生産団体の見学、現地の人との交流から見えたカンボジアの今を伝える報告会を行いました。今後もできる限り現地に足を運んだり、現地で活動をしている人を招いて話を聞いたり、その国の文化や現状をお客さんに直接発信していきたいです。また、新設した手仕事スペースでは、編み物や裁縫に取り組み人たちを応援し、体験や作品を通じて、手仕事の価値を高めていきたいと考えています。年齢、国籍を問わず、その人の個性が大切に生かされる社会にするにはどうあるべきかをみんなで考えていきたいです。



▲カンボジア報告会

顔の見える店～FAIR TRADE風's  
Web <http://huzu.jp> Instagram [huzu.fairtrade](https://www.instagram.com/huzu.fairtrade) 検索  
名古屋フェアトレード・タウンにしよう会(店内)  
Web <http://www.nagoya-fairtrade.net/>



グローバルに活躍する若者を応援する  
「グローバルユースデー2020」を開催しました

グローバルユースデーとは？

国際交流・国際協力・多文化共生などの分野で活躍する団体や学校の若者による、活動発表と交流の場です。2月15日の「グローバルユースデー2020」には、愛知・岐阜・静岡から15団体、100名を超える参加がありました。

トークセッション

冒頭では、この地域でグローバルに活動する実践者によるトークセッションを行いました。外国人支援団体の代表者、就職後も活動を続ける難民支援団体の創業者、フットサルによる多文化交流イベントの主催者の3名に、活動のきっかけややりがい、若者へのメッセージをお話いただきました。



▲参加者の集合写真

プレゼン大会 / 交流タイム



▲交流タイムの様子

SDGs、フェアトレード、日本語学習支援などの若者団体による活動発表を行いました。それぞれが趣向を凝らした素晴らしいプレゼンテーションばかりでした。

その後は、各団体のブースで他団体の参加者と交流し、活動への質問や新しい協働のアイデアを活発に交わっていました。

グローバルユースデー2020の様子を動画にまとめました。  
NICウェブサイトをご覧ください。



NIC学生インターンの声

名古屋市立大学人文社会学部3年(当時)  
遠藤 美来(みく)さん  
グローバルユースデーでは  
企画や司会進行を務めました。



約5か月間のインターンを通して学んだことは、行動に移すことの大切さです。NICの職員の方たちや、イベントの参加者の方々との多くの出会いがありました。NICで関わった方の多くが、誰かのために何かをしたいという思いを持っており、実際にそれを行動に移しています。その姿を見て私自身、非常に刺激を受け、問題を自分事としてとらえ行動できる人間になりたいと強く感じました。

NICでは、様々な事業を通してグローバル人材を  
若者を応援していきます。ぜひご参加ください。



この地域で暮らす外国人にスポットを当てて、ご紹介するコーナーです。



異なる文化の中で  
暮らすということ  
ラシド イサムさん  
(エジプト出身)



初めて来日したのは2007年です。それまでは出身地のイスマイリアの大学で講師をしていましたが、エジプト政府から奨学金が得られたこと、日本学術振興会の友人が紹介してくれたため、筑波大学に留学してコンピューターサイエンスを学びました。出身地のイスマイリアはスエズ運河の北端のポートサイドと南端のスエズの間にあるのどかな街です。日本での留学を終えた後も、エジプトと日本を往来して日本での滞在は通算で7年ほどになりました。

現在、日本の大学で医療機器にまつわるソフトウェアの開発や、そのためのリサーチなどを行っています。日本は最先端の技術を日常的に使いながら、祭りなどのような伝統的な行事も大切に守り、それが混在しているところが面白いと感じます。

日本に初めて来たときには文化が全く違い戸惑いました。しかし、少し経つといつかエジプトとの共通点を見つけました。年長者を敬い、子どもたちを見守り、外国人に対し親切であることです。数か月で日本の生活に慣れることができました。

異なる文化の中で暮らすのに大切なことは、言葉を学ぶこと、異文化を受け入れること、心を開くことだと思います。違う文化を尊重し、受け入れることでより一層お互いの理解を深められると思います。

文化の違いといえば、はじめはゴミの分別に苦労しましたが、

慣れたらこれは良い習慣だと思い、エジプトに戻った時にも続けていました。エジプトでは結局全てまとめて捨てることなのですが、環境にも良いことなので、子どもたちとも、将来、エジプトも日本のようなシステムに変わってほしいと話しています。

10か月ほど前から家族もこちらへ来ています。中学2年生の娘と小学2年生の息子は日本の学校に通い、日本での生活を楽しんでいるようです。娘は、日本語を勉強したいと言ってNIC子ども日本語教室に通い始めました。妻は私よりも日本になじみ、友達も多いです。家に集まってエジプト料理を作ったり、反対に友達の家で日本食を作ったりしています。家族の日本での暮らしを心配していたのですが問題ありませんでした。京都などへの旅行も楽しんでいます。今後も仕事で活躍し、長く日本で暮らしていけたらと思っています。



▲家族と香嵐渓にて